

# 横浜の遺構 身近に

都市発展記念館 台場・瓦斯局展示



神奈川台場の間知石（手前）などが整備された中庭＝横浜市中区

見学できる。

神奈川台場は、湾岸警備の砲台として勝海舟が設計し、1860（万延元）年に完成した。石垣に使われた四角錐形の間知石2点を展示する。2009年、神奈川区内のマンション建設に伴う調査で見えられた。真鶴産で1点が500、7

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館（横浜市中区）の中庭に、神奈川台場と横浜市瓦斯局の遺構を野外展示する庭園が造られた。両館を運営する横浜市ふるさと歴史財団が、洋菓子製造の三陽物産（同区）から500万円の寄付を受けて整備した。無料で

00<sup>+</sup>あるという。

瓦斯局の遺構は、明治末期に増設されたガスタンクのれんが積み基礎の一部。今年7月、横浜市立本町小学校の増築工事に伴う調査で確認された。ガスを供給し、街灯を輝かせた足跡を今に伝える。

横浜が近代化する過程の遺構は各地に残るが、身近に見られる場は少ない。10年前の開館当初からガス管やガス灯を配置していた中

庭に、展示を加えた。

披露式で三陽物産の山本博士社長（44）は「横浜の宝物をみんなで守り、未来の子どもたちに見せてあげたい」とあいさつ。自らも本町小学校の卒業生で、歴史ある母校を誇りに思っていたという。横浜シティガイド協会の嶋田昌子副会長（73）も「駅から近くコースの始点や終点にぴったりなので多くの人に紹介したい」と喜んでいった。（古沢範英）